

防災ラジオドラマ

グループ名 「諏訪町 町内会」

タイトル 「諏訪町に自主防災組織を作ろう」

町内会会長 岩本：三月十一日の大震災では、東北地方に大きな被害が出てたいへんでしたね。特に、太平洋沿岸では、地震に加えて大津波も襲ってきたから、犠牲者もたくさん出で、本当にたいへんなことになってしまいましたね。あの時は、諏訪町でもけっこう被害ができましたよね。

町内会役員 小故島：そうですね。倒れたり傾いたりした家はなかったようですが、屋根のぐし瓦が壊れて落っこちた家はたくさんありましたね。

町内会役員 山根：いや、本当にまいっちゃいました。あれから半年以上も経つのに、屋根屋さんが忙しくて直せないというので、まだブルーシートをかぶせてますよ。

町内会役員 小野瀬：でも、もしこのあたりに、あんな大地震がきたら、どうなっちゃうんでしょうね。町内でも倒れたりする家がたくさん出るでしょうし、火を使っていたお宅からは火災が広がるかもしれないですね。一人暮らしのお年寄りや体の不自由な方は、無事に避難できるかしら。心配だわ。(町内会役員 小故島)
阪神大震災の時も、お隣さんが一人暮らしのおばあちゃんを倒れた家から掘り出して、担いで逃げたって聞いたことがありますよ。

(町内会会長 岩本)：そうだよね。災害が起きてから命の限界は二、三日と言われてるけれど、その間は行政からの支援は難しそうだし、結局、家族や近所で助け合わないとしょうがないよね。ところで、諏訪町は夏の祇園祭や諏訪神社のお祭りをみんなと一緒にやってるから、まとまりはバツグンにですよ。毎年旅行なんか行ってる班もあるし、普段の付き合いは最高ですよ。

(町内会役員 山根)：でも、確かに普段のまとまりは良くても、大地震のような非常事態に、だれがどんな行動をしているのか、みんなわからないと思います。

そう言えば、諏訪町町民の「一時避難場所」と「避難所」の指定場所はどちらでしたかね。

(町内会役員 小野瀬)：一時避難場所が市役所で、避難所は高台にある水海道小学校だと思いました。

(町内会会長 岩本)：心配だね地震災害のような時に、町民をどう避難させるの

か、火災が起きたら初期の消火をどうするのか、一人で避難できない人をどう助けるのか、真剣に考えないといけませんね。

(町内会役員 山根)：犠牲者は一人も出したくないですからね。でも・・・やっぱり担いで走るのは無理だな。

(町内会役員 小野瀬)：会長さん、諏訪町でも自主防災会のような組織を作りましょうよ。だが、いつ、何をすればいいのか、平常時から決めておいて、いざ災害の時には、みんなで自覚して行動することが大切ですよ。

(町内会役員 小故島)：二十三年度は、町内会予算で防災備蓄資機材の購入費が五十万円ついていますから、資機材の購入とあわせて、人づくりというか組織づくりができれば、鬼に金棒ですね。

(町内会役員 山根)：それでは早速、町内会の役員会を近々に開いてもらって、自主防災会のような組織づくりを行うことを承認してもらいましょう。その後、町内回覧版をまわして、自主防災会の参加者を募りましょう・・・お隣の奥さんでも担げそうな「あの人」に声をかけなくちゃ。

(町内会会長 岩本)：でも、ちょっと待って下さいよ。町会役員会に、立上げを提案して承認してもらうのはいいんだけど、参加者を募るといふのはどうかな。一部の参加者だけでなく、町内世帯の全部に参加してもらおう仕組みが理想だね。みんなが同じ意識と目的をもって行動できないと。もちろん、高齢者世帯など、全部が全部、参加してもらうのは難しいと思いますよ。

(町内会役員 山根)：そうですね。町内全世帯に参加してもらおう方がいいですよね。

(町内会会長)：具体的に、どんな案がありますか。

(町内会役員 小故島)：諏訪町の世帯数は約三百四十世帯ですが、世帯ごとに役割を分担していく方法もあるだろうし、諏訪町の自慢でもある「班」を重視した役割分担というのも、一案だと思います。

(町内会会長 岩本)：それから、私もよくわからないのですが、自主防災組織というようなものは、一般的に、どんな組織なんでしょうね。例えば、消火隊とか、救出救護隊とか聞きますが、何が必要なんでしょうか。

(町内会役員 小野瀬)：いくつかの自主防災組織について、インターネットで見ることがありますよ。指示をだす本部があつて、情報隊、消火隊、救出救護隊、避難誘導隊、そして給食給水隊の五つの隊を置いてあるのをよく見ます。

(町内会会長 岩本)：小野瀬さん、なかなか良く勉強していますね。諏訪町に当てはめていくと、どんな組織づくりが理想なんですかね。

(町内会役員 山根)：会長、こんな考えはどうでしょうか。私は、組織のベースとしては、班を重視したもののほうが良いと思います。お互い顔見知り、各家庭の事情もある程度わかっています。

し、その人たちがチームを組んだほうが絶対がいいと思います。それから、災害時の町民への連絡方法を考えても、今の普段のやり方、つまり、町会からの通知を、班長が全班員へ連絡するという手段が確立している訳ですから、これを活用しない手はありません。

(町内会会長 岩本) : でも山根さん。班ごとの行動は賛成なんですけど、例えば、近くの何班かで「消火隊」をつくらせようとするよ。少し離れた場所で火事がでて、そっちに消火に向かったとしますね。

(町内会役員 山根) : はい。
(町内会会長 岩本) : その時に、消火隊をつくっている班内で火事が起こったらどうなるかな。みんな、別の場所の消火に向かってしまっただれもその班の火を消す人がいなくなってしまう。空白地帯ができてしまいますよ。

(町内会役員 山根) : なるほど、それは困ります。
(町内会役員 小故島) : 現在の諏訪町の世帯数は約三百四十世帯、班の数は二十四班ありますが、情報隊、消火隊、救出救護隊、避難誘導隊そして給食給水隊の五つをつくらせようとして、三百四十世帯を五隊で割ると、一隊あたり約六十八世帯ぐらいになります。

(町内会役員 小野瀬) : 一隊あたりの行動人数としては、少し多すぎる気がしますが。連絡や活動がうまく機能しないおそれがありますよね。何班かでまとまりをつくって、本部を含めて六隊を構成しても、会長さんが言うように、災害活動に空白地帯ができてしまいますし。

(町内会役員 小故島) : 解決策として、こんなアイデアはどうでしょうか。町内を二つのブロックに分けて、それぞれのブロックに五隊を配置するようにしたらどうでしょうか。
一隊あたりの構成数としても、連絡や行動がしやすいと思うし、火災などに対しても、もう一つのブロックからの応援体制も考えられます。

(町内会会長 岩本) : それは、諏訪町の特徴を考えると、賢明かもしれませんね。いざという時は、「各隊の役割」を基本にして、場面場面に応じた応援など臨機応変に対応すればいいし、その考え方を基本に組織づくりを考えてみましょうか。

(町内会役員 山根) : そのブロック分けですが、例えば、諏訪神社前の東西方向通りを境に、二つに分けたらどうでしょうか。班の数も世帯数も概ね半々ぐらいに分かれると思いますよ。

(町内会役員 小野瀬) : それから会長さん、私は、お年寄りや体の不自由な方のような要援護者の救出や救護のことがとても心配です。民生委員という立場上、そういう方々のリストは持っていますが、個人情報ですので、目的以外には使用できません。
(町内会役員 小故島) : 災害が起きてから、そういう方々のリストがほしいと市

役所に行っても、とても救出には間に合いませんよ。事前情報として、絶対に持っていたいですね。

(町内会役員

山根)

：それでは、町内全体にアンケートを取りましょう。世帯

ごとに、どんな家族構成なのか、自主防災会が一世帯あたり一人参加するとしたら、実際に参加してもらえるのは誰なのか。それから、どこのお宅に要援護者がいるのか。普段、その方は家のどのあたりの部屋で生活しているのか、そんな情報を手元にあつたら、すぐく役にたちますね。

(町内会役員

小故島)

：例えば、一時避難場所に町民が集まって来た時には、安

否確認が必要になりますよね。世帯ごとの構成リストがあれば、無駄な時間をかけずに確認ができますし、次の行動の判断がすぐにできます。

班ごとの確認を行うにしても、班長さんだけに頼る訳にはいきませんから。

(町内会役員

小野瀬)

：それはいいですね。でも、すごい個人情報ですから、アンケートの回答は強制できません。それから、いただいた情報は、町会のごく限られた一部の役員が厳重に管理することも必要でしょうね。

(町内会会長

岩本)

：それは、そのとおりです。なんだか、こうして話している

うちに、諏訪町自主防災会の全体像が見えてきました。とても良い案を、町内の皆さんに提案できそうな気がしてきました。さっそく役員会に、この組織をつくることを諮りましょう。その後、班長さん達にも加わってもらって、具体的な内容を詰めていきましょう。もう、災害は待ってくれませんから。